

HELLO!!!

Truth=真実

もしあなたが、今までに「真実」について勉強したことがあるのなら、わたしのように「そんなものはない」と信じているかもしれません。世界は白と黒ではなく、すべては主観的なものです。それにも関わらず、「真実」はわたしが気に入っていることの1つです。しかし、恐らくわたしは違う言い方をすべきでしょう。たぶんそれは「わたしの真実」だと。そして「わたしの真実」を人に伝えるということは、彼らに対して正直であるということの意味します。

多くの友人が、わたしの率直さについて語ります。わたしが本当にどう思っているのかを知りたいければ、ただ、わたしに尋ねればいいのです。もしわたしが、くだらないことだと思えば、気にせずそう言います。もちろん、褒めることも好きです。彼らは、わたしが本当にそう思っているのだと知っています。ある友人はわたしに言いました。「あなたの正直さをポケットにしまい、いつでも出せたらいいのに」と。

大学でグラフィックデザインの勉強をする中で、正直な批評はとても重要視されます。先生も、あなたの自己評価とほかの人の評価に基づいて評価します。しかしこの正直な批評は、必ずしもどこでも重要視されるわけではありません。日本文化を経験する中で、わたしは、自分の意

見は自分の中に閉まっておく方がいいと思いました。もちろん日本だけでなく、わたしが「周りの人たちが使っている真実」を理解できない国では、わたしは何を言うかに気を付けるべきでしょう。

しかし、わたしは公の場では、たとえ外国人であっても、すべての人の批評に対して門が開かれている気がします。例えば、最近、内子町のマンホールのふたに書いてある文字を読みましたか？「エコロジータウンうちこ」とあります。この先を読む間、深呼吸をしてくださいね。あなたにとって、内子町の空気はどんなにおいですか？わたしには、すべてが燃えているようにおいです。

南アフリカ、オーストラリア、カリフォルニアなどから来た人にとって、野焼きのにおいはとても苦痛です。これらの国では、度々大きな原野火災の問題が起こります。わたしたちは、危険だから決して野焼きをしないのです。野焼きをしている間の空気は息が吸えないほどであり、その後は灰が辺りに残ります。内子町に住むことは、小さな原野火災がいつも自分の家の裏庭で起こっているようなものです。実際、わたしがこの記事を書いている今も、わたしのオフィスは近所での野焼きの煙で充満しています。その上、わたしはしばしば、布団を干しているアパー

トの目の前の畑で野焼きを見かけます。煙のにおいがする布団で寝るのは素晴らしいことですか？美しく、きれいであるべき田舎の町が、いつも灰色の煙で充満しているのは良いことですか？

町中でいつも田畑から野焼きの火の手が上がる状況が、環境や人々の健康に良いという研究論文があるなら、見てみたいと思います。しかし、そんな論文は存在しないでしょう。たとえ自然の原料を燃やしていても、不必要な煙が大気に流れ、子どもたちの肺へ入るのです。あなたが「ぜんそく」や花粉症としたら、野焼きの煙がそれを悪化させているのではないかと考えたことはありませんか？

田舎を思うとき、わたしは紫色に近い深い青色の空をした美しい南アフリカの町を思い浮かべます。19世紀のイギリスの産業期のような、いつも煙の中に住んでいるようなものは思い浮かべません。もし、わたしが「エコロジータウン内子」に住んでいるのなら、なぜ炭鉱工場に住んでいるように感じるのでしょうか？なぜ「エコ」や「エコロジー」という言葉を見るたびに「それは大きな公のうそじゃないか」と感じるのでしょうか？

しかしもしかしたら、それはただの「わたしの真実」かもしれません。



外国人指導助手
イングリッド・レザー

Ingrid Lezar